

福島ならではの「探究的な学び」



令和8年度第1回総合教育会議
令和8年8月24日(月)

なぜ、今「探究的な学び」なのか

社会的背景

生成AIをはじめとする高度情報化

グローバル化

少子化・高齢化

など

不確実な時代（VUCAの時代）を生きる
子どもたちにとって重要なこと

本県においても、
人口減、人口流出
は大きな課題

自らの人生を舵取りする力を身に付けること

「好き」を育み、「得意（興味・関心）」を伸ばす



当事者意識を持って、自分の意見を形成し、
対話と合意ができる

身に付けさせたい力

自ら問いを立てる力

情報を分析し
判断する力

情報を整理・
分析する力

自分の考えを
効果的に伝える力

他者と協働する力

困難を乗り越えなが
ら学び続ける力



育みたい心

多様性を認める
寛容さ

郷土への愛着心

自己肯定感

当事者として一歩
を踏み出す主体性

レジリエンス

感情をコントロール
するメタ認知

『福島ならではの』の教育の充実

○身近な地域に愛着を持ち、福島に誇りを持つことができる教育の実施

○「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」(※) など、

正解のない社会の課題に向き合うために必要な力の育成

(※学校教育法に基づく学力の3つの要素)

可能性を広げ羽ばたく人への投資・将来の福島を担う人材の育成

全ての学校段階において、児童生徒が未来を切り拓くために必要な『探究的な学び』の推進

『探究的な学び』とは、児童生徒が

- 1) 自ら問いを立て（課題設定）、
- 2) その解決に向けて情報を集め、
- 3) 整理・分析し、
- 4) 考えたことをまとめ、表現する一連の学習活動

育まれる資質・能力や期待される効果

- ・学びに向かおうとする力を身に付け、課題の解決に向けて自ら考え、取り組み、学んだことを次の学習につなげて考えたり生かしたりする。
- ・地域を「自分ごと」として捉え、課題を発見し、解決策を考え、多様な他者とコミュニケーションを図りながら協働する力や、地域・社会へ貢献しようとする意識をもつ。

幼稚園
保育所
こども園等

『遊び』
を通した学び

小学校

『体験』
を重視した学び

中学校

『可能性』
を広げる学び

高等学校

『課題解決力』
を深める学び

大学や企業等との
連携

幼保小の架け橋期の教育 充実支援事業

- 生涯にわたる学びや
生活の基盤となる力の
育成

地域と学ぶ小中学生の「探究的な学び」推進事業

- 自ら学ぶ力、思考力・判断力・表現力
- 問題解決能力、情報活用能力
- 社会(地域)とのつながりの醸成

地域共創による高校生の「探究的な学び」 推進事業・グローバル人材育成事業

- 課題発見力・設定力
- 情報整理・分析力
- 新たな価値を創造する力
- 社会(地域)の課題を解決する力



未来の教育創造事業

義務教育課
令和8年度

事業の全体像と目的



探究的な学び×ICT の相乗効果

探究的な学びとICTの活用を有機的につなげ、次世代を担う地域創生人材の育成を加速します。



多様な人々が参画

教員、企業、地域住民、大学生などが一同に会し、地域全体で教育の未来を考えます。



広域的な 発信と共有

文部科学省教育課程課長の講演動画を県内の教職員へ向け配信し、知見を共有します。（令和8年度）

対象者



教職員 教育委員会 地元企業 地域住民 大学生

【1年目：令和8年度】



学びの変革

文部科学省及び大学教授による講演、事例紹介等を通じ、未来の教育について共通の視点を持ちます。

【2年目：令和9年度】



探究的な学び

文部科学省の講演や実践研究校による発表等を実施します。理論だけでなく、教室での探究的な学びの姿にも着目します。

【3年目：令和10年度】



事業成果発表

実践研究校や希望校による児童生徒の発表、ポスターセッション、ホール発表等を実施します。3年間の具体的な教育成果を広く共有します。

イベントの主な内容（構成要素）



専門家による多角的な議論

講演会やシンポジウムを通じ、有識者が教育の課題と展望を深く掘り下げます。日本の未来を見据え、これからの教育について考えます。



産学官連携

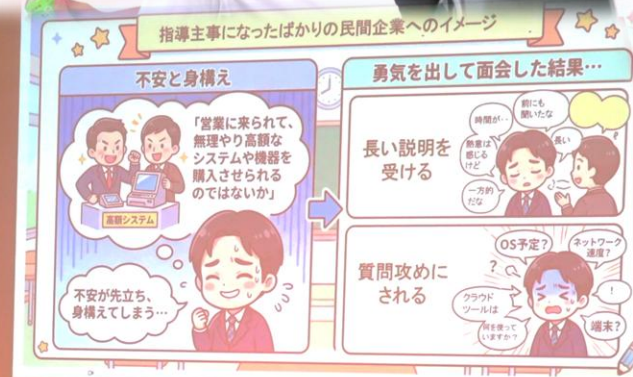
最新の教育ソリューションを紹介します。企業展示ブースを設置し、学校と社会の接点を創出します。新たな学びに向けた対等な対話を実施します。



児童生徒によるアウトプット

探究的な学び×ICTの成果。実践研究校や希望校の児童生徒が主役となり、自らの学びと探究の成果を披露します。（令和10年度）

「福島からデジタル時代の学びの変革」

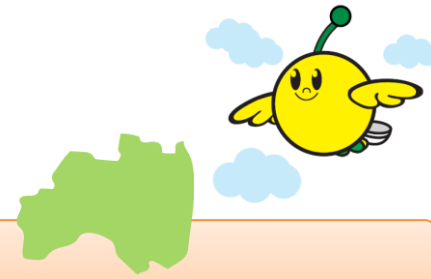


令和8年7月21日（火）

会場参加者

約320名

地域探究コーディネーター



地域コーディネーター

学校と産業人材、企業等をつなぐ役割を担い、各校の「地域課題探究活動」を活性化させる。

現状と課題

- 学校が自治体・企業等と連携する機会や手段がない。
- 地域人材を学校・生徒とマッチングする方法がない。
- 学校だけでは地域人材の掘り起こしが困難である。



見込まれる成果

- 地域探究コーディネーターは、学校・生徒のニーズに応じて地域の人材を発掘し、両者をつなぐことで各校の地域課題探究学習が深まる。
- 地域と学校が協働して地域課題に取り組む体制が構築され、高校生は地域の課題とともに魅力を知り、地域における主体意識が醸成される。
- 高校生は、地域で活躍する地域人材をロールモデルとし、自身と地域の将来を考えるきっかけとなる。

<地域探究コーディネーターの業務>

- 学校・生徒のニーズを聞き取りし、地域の企業等で学校に伴走支援できる人材を探し、両者をつなぐ。
- 探究カリキュラムの開発・助言を学校に行い、探究学習の深化を図る。
- 地域人材を「地域人材ネットワークバンク」に登録し、ロールモデルとなる人材をICT教材化する。

<令和8年度配置校>

県北：福島東高校 県中：郡山東高校 県南：光南高校 会津：会津学鳳高校
南会津：南会津高校 いわき：いわき光洋高校 相双：相馬総合高校



探究 EXPO

- ◎ 全県立高校に加え、希望する中学校や私立高校等の生徒が、探究学習・地域課題探究活動の成果を発表。
- ◎ 広く県民の方に来場いただき、中高生、大学生、企業、自治体等多様な主体同士の交流を通して学校と地域との連携の機会を創出。

日時：令和8年9月12日（土）

場所：郡山総合体育館（宝来屋ボンズアリーナ）

- 地域探究学習の成果発表に対して、自治体・企業等多様な主体が対話を通じてフィードバックを行い、相互理解と交流を深め、新たな連携・共創の機会とする。

生徒による
ポスターセッション
形式での発表

小ステージにおける
コンテスト

ブース出展・発表
(成果物展示、
販売、体験等)

企業ブース出展
(企業の取組紹介、
学校との連携事業
紹介)

探究をテーマにした
パネルディスカッション
や講演

企業と高校生の
マッチングを狙った
交流会

